

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1298600121		
法人名	株式会社ひなた		
事業所名	グループホーム 咲の樹		
所在地	〒298-0001 千葉県いすみ市若山485番地1		
自己評価作成日	令和7年10月29日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://hinata-md.jp/publics/index/34/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPO共生		
所在地	〒275-0001 千葉県習志野市東習志野3-11-15		
訪問調査日	令和7年11月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム咲の樹は、1ユニット9名のご利用者が共に生活をしています。ここでは、認知症状を抱えたご利用者同士が家庭の延長として入居され、まばゆい光を浴び静かに時間が過ぎていく中で、家庭的な雰囲気を感じながら、ご利用者の生活に携わり、その方の生きてきた歴史や生活歴を尊重し、一人の人間として向き合い、感情や思いに寄り添いながら共に行動し、精神的に落ち着きが多くみられるよう、いかにご利用者自身が本来の自分を取り戻していくかを目的とし、地域に開かれた事業所として運営されています。季節ごとの室内装飾や行事、食事を通して季節感のある生活が出来るよう取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当施設は、JR外房線大原駅から徒歩20分の閑静な田園地域に立地する1軒の家、1階1ユニット9室全て個室に入居。開設4年目に入り施設運営も充実・安定し、事業所の運営理念が実践されている。利用者アンケートも8名(9名中)89%の回答率で「職員さんが明るく親切で、安心して面倒を見てもらっています。食事も手作りで心がこもっています。」といったコメントもあり、満足度が非常に高い評価結果となっている。室内では、朝の体操後の周回歩行が車いすも参加する楽しいイベントとなっており、少人数体制での野外散歩では、声かけや野菜の差し入れをいただいたりしている。また、近隣小学校の運動会へ全員参加シテントの特別席で観戦したり、地域のお祭りで神輿が一時立ち寄りしてくれたり、地域との関係性も深まってきている。

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を掲示し、職員間で共有を図り、実践につながるよう日々努力しています。	理念を掲示し理解を深め、朝礼時の唱和と朝夕職員の業務引継ぎ時に確認し合い実践している。事業所の特徴は、地域との絆を大切に「真心を込めたサービスで、その人らしく生き生きとした生活に」をモットーに自立支援を実践し、楽しみや潤いのある普通の生活を送ることが出来ることを何よりも優先している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の散歩等施設外に積極的に出るようになり、あいさつや顔の見える関係づくりに努め、運営推進会議を通して地域の方に理解を深め、地域の行事に参加することで地域に慣れ親しめるように継続していきます。	地域交流に関しては、開設時以来地道に地域の各団体リーダーとの関係づくりを目指して積極的に取り組んできた。自治会長さんや隣地の地主さんも運営推進会議の役員となり、施設運営に協力してくれている。地域行事への参加や、災害対策の一環として開催する施設庭での食事会などを通して、地域との触れ合いや絆を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の構成員の地区総代や民生委員の協力を得て地域の方が認知症の理解を深められるよう、地域に根差した福祉サービスの拠点となるよう努めます。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日常の様子や取り組みを知っていただけるよう資料には写真を多く掲載し、事故・インシデント報告や抱えている問題等の現状を報告し、改善点等のご意見を今後のサービス向上の参考とさせていただきます。	運営推進会議は地域代表者を含め、2ヶ月に1回計画的に施設内でのリアル開催をしており、家族代表者、民生委員、地域代表者など色々な方から運営面での気付きやアドバイスをいただき、職員間で情報共有し施設運営面でのサービス向上に繋げている。委員会では、車いす対応の職員が不足する為介護タクシーの活用を希望するという意見が出て、実践につながった例もある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議への参加協力の際等、市担当者から運営やサービスに関する助言やご指導を頂いています。今後も情報を共有し相談しながら連携を図っていきます。	行政とのネットワーク強化も深まり、運営推進会議への参加協力と市担当者からのアドバイスや助言も適宜いただいている。施設ではできるだけ直接いすみ市役所(健康高齢者福祉課)へ出向き、夜間対応のベッドの高さが身体拘束につながる懸念があるかなど、細かい事案でも丁寧に相談対応していただいている。また、行政制定の各種研修活動にも積極的に参加し、情報収集活動にとどまらず職員間で共有しサービス向上につなげている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会の設置により問題把握に努め、また、すべての職員が研修等で身体拘束についての理解を深め、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	身体拘束についての指針に基づき身体拘束廃止委員会を3か月毎に定期開催しており、身体拘束ゼロを実現するため全職員積極的に取り組んでいる。利用者の安全確保を重視し、職員通用口、玄関サッシュや下駄箱前の内扉などには人感センサーを設置して、身体拘束と利用者の安全確保との兼ね合いを十分検討しセキュリティ対策に継続的に力を入れている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修にて勉強会を行い、虐待が見過ごされることがないように注意を払い防止に努め、入浴時ボディチェックを行い異変の気づきを重要視し、虐待の早期発見に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度について学び個々の必要性を関係者と話し、実際に活用できるように支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は不明な点がないかを確認しながら説明を行い、同意を得て契約をし不安や不満が残らないよう努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご本人からは日々のコミュニケーションの中から要望を聞いたり汲み取り反映させています。ご家族には面会時に普段の様子をお話しするとともに意見・要望等適宜確認するようにし、また電話連絡にて情報交換を行い、対応については日々の申し送りや会議で統一を図っています。	運営に関する利用者、家族等意見の反映については、積極的に取り組んでいる。利用者については日頃、家族からは訪問時や電話連絡時、意見要望を聞き運営に反映させている。家族とのドライブなど外出機会も要望に合わせて制限を緩和し、外泊も許可している。また、館内でのイベント・行事など、入居者一人ひとりの誕生日に合わせたイベントやお食事会などを計画的に開催し、生活・イベントの様子や写真などを「おたより」に掲載、家族に定期報告している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な職員会議や日常のコミュニケーションの中からも各職員の意見や要望・提案に耳を傾け、運営に反映できるよう努めています。	運営に関する職員意見の反映については、施設長が話をしやすい雰囲気を作り、朝夕の業務引継時や適宜開催する職員間ミニミーティング時には意見交換と要望を聞き、運営に反映させている。改善例としては、職員不足についての要望に対して、職員全員が共通認識し採用活動に力を入れた。ホームページを充実したところ、行事や園の様子を見てこられた方への面談を通して採用につながったことも、職員間で協議を重ねた結果が反映につながったものといえる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務体制、実績、給与等、条件を整備し、働きやすい環境になるように就業環境の整備・向上に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修を定期的に行い、ケアの向上を図るとともに、事業所外部の研修に参加する機会を設けるよう努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型通所介護の行事に参加したり、研修会等により、相互訪問の活動によるサービスの向上に努めていきます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	関りを多く持ち、日々の様子や何気ない会話の中から不安や要望を汲み取り、早くに馴染みの関係になれるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が抱えている不安や要望の把握に努め、ご家族の協力を得ながら生活やケアについては話し合い、面会時や電話連絡で状況を伝えていき、信頼関係強化に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた後も必要としている支援を判断し、適したサービスについての情報提供やニーズに応じた対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人がそれぞれの役割をもって家庭的環境の中で生活が送れるよう自立支援を心がけ、共同生活を送る家族のような関係づくりに努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や適宜電話連絡をし、普段の様子をお話し、今後の対応方法等相談しています。ご本人とご家族の絆を大切にしながら、ご本人を支えていける関係を築いていけるよう努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染症対策に留意しながら、随時面会や外出・外泊に応じて、ご家族以外の方も面会等に来られやすい環境を作り、できる限りの支援に努めています。また、入居前のかかりつけ医に継続受診できるよう支援しています。	感染症予防対策に力を入れている中ではあるが、馴染みの人との交流についてはできる限り規制緩和し家族との良好な関係は保たれている。かかりつけ医が提携病院とは別の療養所だからとの理由で家族と一緒に診察を受けに行ったり、職員が外出対応した関係先ではついでに思い出の場所のそばを通ったりと、家族と連携して馴染みの人や場の関係継続には力を入れて取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	朝の体操や近隣への散歩、レクリエーション活動を通し他者との関わり合いを持ち、家事手伝いなどで自主性を引き出しながら関係づくりの支援に努めています。また、利用者同士が楽しく生活できるように席の配置に工夫しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、必要に応じ、ご本人やご家族の相談や支援に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメント等を参考に、また、普段の会話や態度の中からご本人の思いを汲み取るよう努め、その人らしい生活ができるよう寄り添う支援に努めています。	利用者にリンゴや里芋の皮むきを依頼し、在宅サービスでは危険とされ包丁を握る機会がなかったが、ここでは過去の経験を蘇らせ自らできるという自信に繋がる姿が見られた。また職員の作業を見て興味を示し、自ら参加することで喜びの表情を示す様子が確認されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族から、これまでの生活歴・馴染みの暮らし方や生活環境を聞き把握に努めています。ご家族の思いにも応えられるよう支援に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子や状況を介護記録に記入し、申し送り時意見交換を行うようにしています。言動や表情の変化などに注意を払い、残存機能を支援の中から見極め、職員間での情報共有に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の意向を踏まえた上でケアプランを作成、その人に合ったサービスの提供に努めています。適宜カンファレンスを行い、ご家族の面会時等には普段の様子を報告し希望や意向の確認を行い、ケアプランに反映させています。	車いす利用者がテーブル席で足置き台(フットレスト)を隣の席の人にぶつけることを気にし本人と話し合い外したが、ベッドに移る際に転倒してしまうことがあり、家族と医師に相談し訪問マッサージを導入した。また生活の中でできることを見つけ、褒めることで自信に繋げる支援が行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録を記入し情報を共有しています。問題等は会議やその都度話し合いによる対応を検討し、実践や介護計画に反映するよう努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院への通院支援などご本人やご家族の希望に応えられるよう、柔軟な支援を行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握し、個々が安全で楽しい生活を営めるよう支援に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に、今までのかかりつけ医に継続受診の際には、ご家族の協力が得られるかを確認し、施設側でもできる範囲での受診の支援を行っています。	入居前からのかかりつけ医には家族が同行し、都合がつかない場合は職員が有料で対応している。運営推進会議の議題から訪問診療専門医院を見つけ1月から導入が予定されている。現在は協力医療機関として市の医療センターがあり、必要に応じ職員が同行し通院している。施設内には看護師資格を持つ職員が薬の管理と健康管理に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護師に相談し、適切な受診や看護を受けられるように支援しています。今後訪問看護も視野に入れ支援していきます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院に際し、安心して治療ができるよう、病院関係者と情報交換や相談をし、連携を図りながら支援するよう努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族や医師と相談しながら、ご本人やご家族の意向に沿ってできる限りの支援を行うよう努めています。	施設は看取り体制を有していないため、看取りは行わないことを入居時に家族へ明確に説明している。重度化した場合は家族と医師に相談し、入院や他施設への移動を検討することになる。移動先として医療行為が可能な特別介護老人ホームがあることを説明し、直接の交渉は家族に委ねている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを整備し、急変時に対応できるよう定期的な訓練を行うよう努めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常火災通報装置を設置しています。また、消防署の協力を得た定期的な避難訓練や自主防災訓練等の実施に努めています。	日中を想定した消防署立会いの避難訓練を12月に予定し、自主訓練も計画しており避難場所は駐車場としている。災害発生時の近隣支援体制は未整備であるが、自治体消防費を負担している。現在は作成済みBCPに沿って、必要な行動について職員への周知を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は言葉遣いに気を配り、心身の状態に応じて言葉かけや対応を考え、プライバシーを損なわないように配慮しています。	利用者への声掛けは、上から目線にならぬよう配慮している。さらに、人によって気にする点異なるため、介護方法に注意を払っている。例えば横になりたい人に無理強いせず、食事時にテレビを望む人にはテレビの前の席にするなど、本人のペースを崩さぬ支援を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が希望を表せるような働きかけをし、理解できるよう説明を行い、自己決定や選択ができるように声掛けに配慮し、選択肢を設ける等の支援をしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れに沿った働きかけはしますが、ご本人のペースで生活できるような支援に努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問理容、またはご家族の協力による外部の美容室を利用しています。服装はご本人の意向に沿うようにし、気候に合った衣類調節に努め、外出の際の身だしなみに配慮しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に食材を買い出しに行ったり、自主的に参加してくれる方には調理の一部のお手伝い、盛り付けやおしぼりの用意、テーブル拭き、お茶入れ、下膳等無理のない範囲でお願いしています。また行事食やお誕生日にはご本人のリクエストに応えるなど心がけています。	食事は内部で調理され、職員が食材に応じて都度メニューを考えている。大原漁港の魚を捌き新鮮な刺身を提供した際には利用者が喜び、家族からも心のこもった手造りとの意見が寄せられた。準備や片付けは利用者ができる範囲で参加し、共に過ごす楽しさを感じてもらえるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考慮したメニュー提供に努め、個々の状況や体調による食事形態やメニュー変更にも対応しています。食事摂取の把握に努め、水分補給には注意を払っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、一人ひとりに応じた口腔ケアを行っています。義歯は夜間洗浄後、預かり置きまします。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立されている方が多く、支援必要な方へは定時誘導のほか、適宜、声掛けやご本人の様子、行動でトイレ誘導を行っています。歩行困難な方も日中トイレにて排泄介助を行っています。	ほとんどの利用者がトイレで排泄可能な状況である。定時誘導として起床時・食事前・就寝前に声掛けを行い、それ以外は動きや表情の変化を読み取り誘導している。排泄チェック表で職員間の共有を図り、夜間は眠れなくなる人にはおむつや尿器で対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルトや繊維質の物を食事で摂れるよう提供し、水分補給を促し、施設内歩行訓練を毎日取入れ、軽い運動など予防に取り組んでいます。、慢性的に便秘の方は薬の処方がされており、排便の確認を行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2~3回の入浴支援を行っています。その時の体調やご本人の様子で柔軟に対応しています。また、入浴リフトを設置しており、立ち上がり困難な方も安全に入浴することが出来ます。	入浴を拒む利用者はなく、温まるタイプやさっぱりするタイプの入浴剤を用いて楽しんでいる。浴室には入浴リフトが設置され全員が湯舟に浸かることができ、職員は入浴時に体の変化を確認し健康状態の把握に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動や運動を積極的に支援し、昼夜逆転にならないよう取り組んでいます。また、生活習慣やその時々状況に応じ、午睡を取り入れる等柔軟な支援に努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の説明書をファイルに整理し、確認・把握ができるようにしています。誤薬のない服薬支援を行い、症状の変化の確認に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の希望や能力に応じて家事や制作活動、また散歩や買い物、花見などの外出活動を行っています。晩酌として度数の低いアルコール摂取も柔軟に対応しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族と外食されたり、希望に応じて散歩や買い物の支援をしています。また郊外遊歩によるドライブや行事としてお花見・外食等外出支援に努めています。	散歩は以前小学校までであったが、現在は集会場までとなり距離は短くなっている。途中で近隣住民に会えば挨拶を欠かさない。以前は散歩の途中に無人の直売所があり飲料水を買えたが、なくなったため必要時にはJA直売所までドライブで行くようになった。外出では、大原の河津さくらを見に行くこともある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には必要なものは立替し実費徴収させていただきますが、お財布を自己管理し外出の際に買い物をする方もいます。社会参加による金銭の受け渡しの機会の支援にも努めます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持し使用している方もいます。希望があれば電話をかけお話しいただく支援も行います。知人や身内からお手紙が届く方もいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境整備に心がけ、共用スペースにはご利用者の作品を飾ったり、季節に合った壁面制作や装飾、草花を飾ったりして季節感を味わえるようにしています。	1階は回廊の形であり、朝の体操後に集会歩行を皆で行っている。そのため歩行の妨げとなる物を置かずテーブル間の距離にも配慮している。日中はリビングで運動や歌などで楽しみ、それぞれ自由にくらししている。テーブルの形は、円卓にしておりそれを囲むことで会話が進み、隣同士で世話をする姿も見受けられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングスペースに大型テレビを設置し、3人掛けソファを2つとテーブルを用意。ダイニングテーブルは円卓になるような形状の物を使用し、お互いに顔を見て話せるようにしています。思い思いに場所を移動され過されています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の希望により馴染みの物を自由に持ち込むことが可能となっています。家族の写真やご本人の制作物等を掲示し、落ちついて過ごせるように配慮しています。	入居前から使っていた枕や、体に合わせた椅子を持ち込むことで、落ち着いて過ごす傾向がある。居室には家族写真を置く人も多く、思い出を振り返るきっかけとなっている。日中はリビングで過ごすことが多いが、針仕事や休息を望む際は居室を利用される方もおり、安全確認のため職員はドアを少し開けるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室に表札を付けたり、トイレ、お風呂などの場所を分かり易くし、できるだけ自立した生活が送れるような、出来る事が出来なくなってしまうような支援に努めています。		